

教科・科目	財務会計 I	単位数	4単位	学年・学級	3年IV群
使用教科書	財務会計 I (TAC出版)	副教材	スピードマスター精選簿記演習 (実教出版)		

学校教育目標	郷土を愛し たくましく生きよう 自ら学ぶ意欲を持ち続けよう					
育成を目指す資質・能力	傾聴力		協働力		議論する力	
	自省力		理解力	○	批判力	○
	自己実現力		表現力	○	情報活用力	○
学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>簿記に関する知識と技術を習得させ、その基本的な仕組みについて理解させるとともに、適正な会計処理を行う能力と態度を身に付ける。</li> <li>企業において日常発生する取引を仕訳し、勘定記入を経て、決算に至る簿記の基本的な仕組みについて理解する。</li> <li>帳簿や財務諸表を通して、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を育てる。</li> <li>帳簿や財務諸表などを作成する際の計算を通じて、電卓等のビジネス機器を活用できる知識と技能を育てる。</li> </ul>					

評価の観点				
	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
A 使える	簿記に関する知識と技術について深く関心をもち、適正な会計処理に主体的に取り組み、実践的な態度を身に付けている。	様々な記帳法、処理法について誕生した意義を深く考え、適切な方法を判断し、ビジネスの諸活動を計数的に把握した成果を適切に表現することができる。	簿記に関する知識と技術に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、適正な会計処理を行うことを合理的に計画し、その技術を適切に活用することができる。	簿記に関する知識と技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、簿記の仕組みについて深く理解している。
B わかる	簿記に関する知識と技術について関心をもち、適正な会計処理に主体的に取り組み、実践的な態度を身に付けている。	様々な記帳法、処理法について誕生した意義を考え、適切な方法を判断し、ビジネスの諸活動を計数的に把握した成果を適切に表現することができる。	簿記に関する知識と技術に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、適正な会計処理を行うことを計画し、その技術を適切に活用することができる。	簿記に関する知識と技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、簿記の仕組みについて理解している。
C できる	簿記に関する知識と技術について関心をもち、適正な会計処理に主体的に取り組んでいる。	様々な記帳法、処理法について、適切な方法を判断し、ビジネスの諸活動を計数的に把握した成果を適切に表現することができる。	簿記に関する知識と技術に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、適正な会計処理を行い、その技術を適切に活用することができる。	簿記に関する知識と技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、簿記の基本的な仕組みについて理解している。
D	A、B、C いずれにも該当しない。	A、B、C いずれにも該当しない。	A、B、C いずれにも該当しない。	A、B、C いずれにも該当しない。
具体的改善策	何で評価するか ・補習の受講状況	何で評価するか ・補習 ・確認テスト	何で評価するか ・補習 ・確認テスト	何で評価するか ・補習 ・確認テスト
評価基準	①関心・意欲・態度 (20点) A: 14点 ~ 20点 B: 8点 ~ 13点 C: 1点 ~ 7点	②思考・判断・表現 (20点) A: 14点 ~ 20点 B: 8点 ~ 13点 C: 1点 ~ 7点	③技能 (30点) A: 21点 ~ 30点 B: 12点 ~ 20点 C: 1点 ~ 11点	④知識・理解 (30点) A: 21点 ~ 30点 B: 12点 ~ 20点 C: 1点 ~ 11点
	何で評価するか ・ワークブック ・振り返りシート ・検定受験 ・レポート	何で評価するか ・ワークブック ・単元確認テスト ・定期考査 ・検定結果 ・レポート	何で評価するか ・ワークブック ・単元確認テスト ・定期考査 ・検定結果 ・レポート	何で評価するか ・ワークブック ・単元確認テスト ・定期考査 ・検定結果 ・レポート

【学習計画】

月	単元	学習の目標【評価の観点：評価方法】	自己評価	実際評価
4	オリエンテーション 第1編財務会計の基礎 ・企業会計と会計公準 ・企業会計制度	☞前期の目標 ・企業会計の意義や役割、財務会計と管理会計の役割の違い、財務会計の利害調整機能と情報提供機能、会計担当者の役割と責任、会計公準の概要及び会計などに関する情報開示の重要性、会計法規の種類と目的、会計基準の意義と動向や会社法会計、金融商品取引法会計及び税法会計の目的と特徴について理解する。		
5	第2編貸借対照表 ・貸借対照表の概要 ・資産の分類と評価 <b>【全経簿記検定】</b>	<b>【①②④：ワークブック、単元確認テスト、振り返りシート】</b> ・資産と負債の分類とその基準や資産の分類、評価基準について理解する。 ・負債の分類、現金預金の種類と銀行勘定調整表の作成方法、現金預金の会計処理方法を身に付け、金銭債権の種類と評価方法を理解する。 ・金銭債権に関する会計処理、保証債務の意味と会計処理方法を身に付ける ・電子記録債権・電子記録債務の意味と電子記録債権・電子記録債務の会計処理方法を身に付ける。		
6	・負債の分類 ・現金預金 ・金銭債権 ・電子記録債権と電子記録債務 <b>【全商簿記検定】</b>	<b>【①②④：ワークブック、単元確認テスト、振り返りシート】</b> ・棚卸資産の評価基準、棚卸資産の会計処理と期末評価の会計処理方法、有価証券の意味、区分と有価証券に関する会計処理方法を身に付ける。 ・棚卸資産の評価基準、棚卸資産の会計処理と期末評価の会計処理方法、リース取引の意味とリース取引に関する会計処理方法を身に付ける。		
7	・棚卸資産 ・有価証券 ・有形固定資産 ・リース取引 <b>【全経簿記検定】</b>	<b>【①②③④：ワークブック、単元確認テスト、振り返りシート】</b> ・無形固定資産の意味と無形固定資産に関する会計処理方法を身に付ける。 ・研究開発費の意味を捉え、研究開発費に関する会計処理方法を身に付ける。 <b>【①②④：ワークブック、単元確認テスト、振り返りシート】</b>		
8	・無形固定資産 ・研究開発費とソフトウェア <b>【前期期末考査】</b>	☞振り返り <b>【①②③④：ワークブック、定期考査、検定結果、振り返りシート】</b>		
9		☞後期の目標		
10	・引当金 ・純資産（その1） ・純資産（その2） ・純資産（その3） ・貸借対照表の作成方法	・引当金の意味や分類と引当金に関する会計処理方法を身に付ける。 ・純資産の意味や分類と株式会社の設立時と開業時の会計処理、資本金の増加と減少の会計処理、資本剰余金と利益剰余金の会計処理方法を身に付ける。 ・自己株式の概念と取得・処分・消却の会計処理方法、新株予約権の概念と発行・権利行使の会計処理方法を身に付ける。 ・棚卸法と誘導法、報告式の貸借対照表の表示区分と作成方法について扱い、資料を基に報告式の貸借対照表を作成方法を学習する。 <b>【①②④：ワークブック、単元確認テスト、振り返りシート】</b>		
11	第3編 損益計算書 ・損益計算書の概要 ・損益計算の基準 ・役務の提供と工事契約 ・掛け代金の割引 ・外貨建取引 ・法人税等と税効果会計 ・損益計算書の作成方法 ・その他の財務諸表 <b>【学年末考査】</b> <b>【全商簿記検定】</b>	・報告式の損益計算書の作成方法、損益の認識基準や原則を理解する。 ・役務の提供の意味と会計処理方法、工事契約の意味と工事契約に関する会計処理方法を身に付ける。 ・割引きの会計処理方法、外貨建取引の会計処理方法を身に付ける。 ・法人税、住民税、事業税の会計処理、利益と課税所得の違い、税効果会計や将来減算一時差異と将来加算一時差異の会計処理方法を身に付ける。 ・損益計算書の作成の原則を理解し、損益計算書を作成方法や株主資本等変動計算書の作成に関する会計処理方法を身に付ける。 <b>【①②③④：ワークブック、定期考査、検定結果、振り返りシート】</b>		
12	第4編 財務諸表の活用 ・ディスクロージャー制度 ・財務諸表分析 発展 連結財務諸表 ・連結財務諸表 <b>【全経簿記検定】</b>	・財務会計の利害調整機能と情報提供機能、会計などに関する情報開示の重要性について理解する。 ・財務指標の概念及び収益性、成長性、安全性の面から企業の実態を分析する方法や財務諸表を分析する方法を身に付ける。 ・連結財務諸表の目的と種類及び企業集団の実態を分析する上での連結財務諸表の有用性と連結財務諸表の作成に関する基本的な会計処理方法を身に付ける。 ☞振り返り <b>【①②③④：レポート】</b>		
1				
2				
3				

☞最終評価（自己評価／実際評価）

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解